

地元で愛される老舗 みやざきクリニック

宮崎 通泰 院長

産婦人科・小児科・内科

医療法人娛生会 みやざきクリニック

〒355-0328 埼玉県比企郡小川町大塚285

TEL：0493-72-2233

東武東上線・JR八高線「小川町駅」徒歩7分



医学博士
日本産婦人科学会認定
産婦人科専門医
母体保護法指定医
日本医師会健康スポーツ医
日本産婦人科学会功労会員
日本産婦人科医会特別会員
介護支援専門員

【経歴】
東京医科大学医学部卒業
東京医科大学病院産婦人科入局

埼玉県小川町で先祖代々続く、地元で愛される「みやざきクリニック」の宮崎院長にお話を伺いました。

UTP 社長角谷(以下 角谷)：本日は、どうぞよろしくお願いします。まずは先生の専門からお伺いします。

宮崎先生(以下 宮崎)：私は、産婦人科医です。当院では不妊治療で実績を上げると共に、子宮筋腫、生理不順、更年期障害など女性の皆様の一生をサポートさせて頂いております。また、患者様の気持ちを大切にし、家庭的な雰囲気の中での治療を心がけています。

その他、妻が小児科医、長女が内科医として診療を行っています。また、医療法人として、このクリニックの他に、同じ敷地内に「デイサービスももとせ」、「小規模多機能ホームももとせ」を、そして東秩父村に「介護老人保健施設みどうの杜」を運営しています。

角谷：先生がドクターを目指された、きっかけは何だったのでしょうか？

宮崎：私の家は、9代続いた医者の家系です。10代目の自分には医者になるしか選択肢はなかったと言えます。医者を選ばなければ家に帰れないでしょう(笑)。今は、娘が後を継いで医者になってくれて、ひと安心です。



左から 担当福岡、宮崎先生、社長角谷

角谷：10代目のお医者様とは、感服しました。先祖代々、地元の皆様の健康を守ってきたんですね。そんな先生は、なぜ“プラセンタ療法”を選ばれたのですか？

宮崎：UTPの福岡君が、会いたいと言っていきなり飛び込んできました!ちょうど“プラセンタ療法”に興味があって、どういう物なのかと思っており、とりあえず話していると小川町の出身だと聞き、身近に感じたので一度会ってみることにしました。一番心配していたプラセンタの副作用については、彼の説明を聞き安心できました。本当に福岡君には、感謝です。

角谷：そのようにおっしゃって頂き、光栄です。先生が、“プラセンタ療法”を本格的にスタートしたきっかけがあったそうですね。

宮崎：それは実際に自分がプラセンタの効果を体感したからです。

以前に、いきなりめまいがして倒れたことがあります。3日ほど入院して全て検査したものの、どこにも異常はありませんでした。おそらく過労だと思います。

そこから、プラセンタを飲み始めました。その後、めまいはなくなり元気です。プラセンタは疲れには絶対です。何といっても疲れにくくなりました。趣味でよくゴルフに行きますが、疲れが残らず、翌日元気に診療することができます。

また仕事柄診察の度に手洗いをし、カサカサになってしまう手に、日に何度もハンドクリームを塗っていましたが、それとも必要なくなりました。

UTP 福岡(以下 福岡)：それでは実際に、先生はサプリメントをどのように患者様に勧めていらっしゃいますか？

宮崎：私は、プラセンタのサプリを飲んでもう3年程になります。愛用しているスタッフも様々な体感をしています。だからこそ、自分たちの体感をお話しています。やはり自分のリアルな話が一番わかって頂きやすいと思います。

先日美容師さんの一例をご紹介します。まずは、私がプラセンタを飲み始めてからの変化をお話しました。

シャンプーをすると、髪がまとめて抜けることがあったがプラセンタを飲み始めてからはあまり抜けなくなったこと、以前は、顔にこまめにクリームを塗っていたが今は体内から潤っているので、クリームをつけなくてもよくなったことなど、私の体感をお話した上で、相手の症状によって具体的な話に移っていきました。

また、患者様の口コミからご縁を頂くこともあります。家族がプラセンタを飲んでから元気そうなので、私も飲みたいと言って来る方もいらっしゃいます。

福岡：実際に愛用されている患者様の体感はいかがでしょう？

宮崎：初めてプラセンタサプリを購入して頂いた患者様が、サプリがないとダメだと言われ、もう3年程続けてくれています。以前は、大変疲れやすく仕事を終えて帰宅後は、家事が全くなかったそうです。飲み始めてからは、家事もできるし、土日に遊びに行く余裕もできてきたそうです。

それと前回のガイドセミナー「婦人科医における統合医療プラセンタセミナー～漢方薬と不妊治療について / 老人介護施設運営の取組み～」でも発表したように、更年期なども影響する、軽うつ傾向の方に効果がでています。

症例の一部をご紹介します。この方は様々な体感をされ、精神面でも変化がみられるようです。

症例紹介	女性 42歳 H27.2～内服開始1年
● プラス指向になり笑顔が増えた ● 意欲が出るようになった ● 肩こりが良くなった ● 風邪をひきにくくなった ● 花粉症の改善 ● 腕の湿疹がなくなった ● 体が軽くなるので自然と動けるようになった ● 疲れにくくなったので多少の無理も大丈夫 ● 代謝が良いのか暑くて仕方がない手足が暖かい ● 口内炎のできる回数が減ってきた	
※症例はあくまで個人の感想であり、効果を保証するものではありません。	

やや話がそれますが、私は、服用方法で「必ずいつ飲みなさい」とは言いません。1日4粒ですから、私は朝晩2粒ずつ飲んでいるとお話します。

大切なのはご自身の生活リズムに合わせ、飲むことを忘れないようにすることです。



宮崎先生と美容アドバイザー渡辺

UTP 渡辺(以下 渡辺)：これは効果持続のポイントと言えそうですね。他の取扱店様からは、サプリメントを途中で辞めてしまう方がいらっしゃると聴きます。

宮崎：まれに、金額が高くて続けられないという患者様がいらっしゃいます。安いものではないですからね。

角谷：ごもっともです。もちろん、安い商品を作ろうと思えば、プラセンタの量を少なくすれば可能です。しかし、クリニックの先生方に、治療の一環として安心してお勧め頂き、確かな実感が得られるようにしようとすると、この金額になります。だからこそ、使って頂ければ、その効果を実感して頂けると思っています。

宮崎：その通りだと思います。だから、私は患者様にお勧めするときに「まず3ヶ月続けてみてください。それで効果を実感しなかったらやめてね、高い物だから」と言って始めて頂いています。そして、3ヶ月後にお聞きすると、ほとんどの方が続けますとおっしゃいます(笑)

角谷：先生の診療方針や目指す医療について教えて頂けますか？

宮崎：固い言い方はできないのですが、患者様とのコミュニケーションを大事にしています。患者様のお話をよく聞いて理解するようにしています。

お話が苦手な患者様の中には、いらっしゃいます。そんな時は、「○○はどう?」と、質問をするように聞いてみます。「医者がこうでしょう」と言ってしまうと、「ハイ」だけで終わってしまい、本当の状況がわからないことがあると思うのです。

それと、「私の話でわからないことがあったら必ず質問してください。もし、後で思いついたら、箇条書きでも良いので書いてください。」とも。心掛けていることは“患者様とよく話して、患者様に寄り添う医療”です。

角谷：最後に今後新しく“プラセンタ療法”を始められる方に、何か一言お願いします。

宮崎：悩んでいる患者様に“プラセンタ療法”をお勧めすることは、患者様が正しいプラセンタの情報と出会うチャンスだと思います。私は、医師も自分自身が体感し、それを患者様にお話しすることが必要だと思います。

角谷・福岡・渡辺：本日はありがとうございました。

編集後記

埼玉県小川町は、ユネスコの無形文化遺産に指定された「細川紙」の町です。その申請に際し、宮崎先生のお爺様が描かれた和紙製造工程の絵が、資料として提供されたそうです。宮崎先生は、常に暖かい笑顔で、私たちも安心してお話を伺うことができました。



明治40年代
宮崎元育医師に
よって描かれた
紙漉き工程(一部)

